

海綿状血管腫摘出術後に著明な中脳振戦を呈した症例のリハビリテーション実施経験

吉田拓¹⁾ 閑野治子¹⁾ 小嶋佑亮¹⁾ 浅倉靖志¹⁾ 菊地豊¹⁾ 木村浩晃²⁾ 美原盤²⁾ 笠井健治³⁾
大島秀規⁴⁾ 吉田一成⁵⁾ 手塚由美⁶⁾ 河島則天⁷⁾

- 1) 公益財団法人脳血管研究所美原記念病院 リハビリテーション科
- 2) 公益財団法人脳血管研究所美原記念病院 神経内科
- 3) 埼玉県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション科
- 4) 埼玉県総合リハビリテーションセンター 脳神経外科
- 5) 慶應義塾大学病院 脳神経外科
- 6) 一般社団法人 輝水会
- 7) 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 運動機能系障害研究部

症例は 38 歳男性。左中脳背側部の海綿状血管腫摘出術施行 4 ヶ月後に右上下肢に著明な動作時振戦が出現、時間経過とともに増強した。術後 7 ヶ月より、服薬調整およびリハビリ目的で回復期リハビリ病棟に入院とした。入院時、動作時振戦に加えて座位安静時の頭部動揺を認め、立位・歩行には介助を要した。4 ヶ月間のリハビリ介入を経て、頭部動揺の軽減と立位姿勢の安定化、歩行動作の改善を認めたが、右上下肢の動作時振戦は依然著明であったことから深部脳刺激（DBS）を施行した。DBS 施行によって右上下肢の動作時振戦に軽減を認め、その後のリハビリ実施によって右上肢動作、歩行器を用いた歩行が安定した。自宅復帰後には定期的に水中リハビリ、歩行リハビリを実施した結果、振戦の軽減と歩行の安定性向上を認め、最終的に職場復帰に至った。本発表では、上記経緯に沿って実施した姿勢計測、歩行および上肢運動時の動作解析の結果をもとに本症例の経過を整理し、症状軽減に至った過程について報告する。